

学術委員会報告

MIYASHIRO Isao

宮代 勲

大阪国際がんセンター / JACR 副理事長

JACR Monograph 編集長



西野 善一
金沢医科大学

片山 佳代子*
群馬大学情報学部

伊藤 ゆり
大阪医科薬科大学

杉山 裕美*
放射線影響研究所

田淵 貴大*
大阪国際がんセンター

中林 愛恵
島根大学

*JACR Monograph 編集委員

2022年7月から新役員体制となり、学術委員会も新体制となりました。多職種が多様なカタチで学術活動に興味を持って関わられるよう、委員とともに活動していきたいと考えています。2020年7月に安田前委員長から引き継ぎ、以下の整理を進めてきました（通称モノグラフ編集委員会を統合した経緯はNEWSLETTER No.49参照）。

(1) 学術集会での優秀演題表彰

学術集會事務局とともに学術委員会が優秀演題の選考を行い、最優秀口演賞、最優秀ポスター賞、優秀ポスター賞（各1題）を表彰します。最優秀口演賞は当日の発表をもとに選出することから、優秀口演選考セッションを学術集會プログラムとして設けるよう学術集會会長に依頼しています。

(2) 学術奨励に関する表彰制度

「藤本伊三郎記念がん登録学術賞」を2022年から実施しています。国際がん登録学会（IACR）発表者が対象となっていた「藤本伊三郎賞」とともに「日本が

ん登録協議会学術奨励賞」を目的に合致する制度へと見直しました（両賞は2021年終了）。継続的な運営に欠かせない資金という課題の解決をはかり、年間を通して応募できるようにしました。

(3) JACR Monograph のあり方

第1部を構成する論文集のプロセスを見直し、編集委員以外の査読者も含む複数での peer review としました（第24刊）。第2部を構成する学術集會記録も見直し、研修会資料に加え、抄録集も再掲しないこととしました（第27刊）。プログラム（再掲）と加筆抄録・ポスターは掲載しますが、査読を経る第1部への投稿を促しています。また、1年後になっていたウェブ掲載を紙媒体発送後の早々に公開する方針に変更しました（Supplement は会員サイト限定）。次は第28刊をお届けします。

テーマを継続的に取り上げていく学術集會企画への参画は、集會様式が変則的である現状において検討課題としています。

安全管理委員会報告

NISHINO Yoshikazu

西野 善一

金沢医科大学/JACR 副理事長



大木いずみ
埼玉県立大学

金村政輝
宮城県立がんセンター研究所

伊藤秀美
愛知県がんセンター

茂木文孝
群馬県健康づくり財団

森島敏隆
大阪国際がんセンター

安全管理委員会では都道府県がん登録室の安全管理の向上に向けた取り組みを行っています。現状における主な課題としては各登録室が自登録の業務体制や設置環境に合わせた対策をとることができるように支援を強化することと考えています。

現在、各登録室は厚生労働省と国立がん研究センターから公表された「全国がん登録における個人情報保護のための安全管理措置マニュアル」に従って安全管理措置を行っています。実施にあたっては同マニュアルに記載された要領や業務手順の例を参考に規程類が整備されていますが、その際には自登録の状況に即した形で適宜修正を行う必要があります。例えば、入退室管理においては登録室の鍵が施設の管理ではなく各職員がカードキーを所持し管理している場合がありますが、その場合には示されている例とは別に職員がカードキーを紛失した場合の対応手順について定めることが求められます。また、日常実施している業務と

は直接には関係しない事故時の対応手順の整備や定期的な教育の実施については特に支援を要する点と考えています。このうち事故時の対応手順については、事故にいたる前の兆候（いわゆるヒヤリハット事例）についても、報告、記録、共有の重要性についてさらに周知を図る必要があります。そのほか、行政担当者や有期雇用職員が定期的に交代する中でどのように安全管理を維持していくかや、規程類の最新化を怠りなく行っていくための方策などを課題として認識しています。

本委員会ではこれらの課題につきこれまでの経験をふまえて具体的な方策を全ての登録室に対して示すとともに、前回の改定から4年余りが経過した上記安全管理措置マニュアルの内容について今後の改定の参考になるような提案を行っていききたいと考えています。会員の皆様には引き続き本委員会の活動へのご理解とご協力を賜れば幸いです。